

## 臨床医学4 第14回

11-49 脊椎すべり症について正しいものには○、誤っているものには×を記載しなさい。

- (1) 先天性脊椎すべり症は第1仙椎の先天的な形成不全によりおこる。
- (2) 変性脊椎すべり症は、ほとんどが第5腰椎のすべりである。
- (3) 分離性脊椎すべり症は、第5腰椎によくおこり、腰椎前弯が増強する。

11-50 脊柱管狭窄について()内にあてはまる語句を記載しなさい。

腰椎の(1)が狭くなり、内部に存在する(2)、神経根が絞扼されて(3)症状が生じた状態を(4)という。脊柱管が正常より狭く成長した(5)脊柱管狭窄と症例のほとんどがこの原因による(6)脊柱管狭窄の2つに分かれる。

11-53 強直性脊椎炎について正しいものには○、誤っているものには×を記載しなさい。

- (1) 約90%にHLA-B27がみられ、リウマトイド因子は陰性である。
- (2) 合併症として50%以上に虹彩毛様体炎を合併する。
- (3) 10歳後半から20歳代の男性に多い。
- (4) 仙腸関節を侵す原因不明の疾患である。
- (5) 症例の大部分に関節炎を伴い、関節周囲に骨化を伴うことが多い。

11-55 頸椎椎間板ヘルニアについて()内にあてはまる語句と数字を記載しなさい。

椎間板の(1)の退行変性などの原因により、髄核が(1)と(2)を突き破って脊柱管内へ脱出し(3)症状を引き起こしたものである。通常は後方へ脱出し(4)、あるいは脊髄を圧迫する。30～50歳の(5)性に多く、好発部位は第(6)頸椎、第(7)頸椎第(8)頸椎間の順に多い。

11-59 頸椎椎間板ヘルニアの治療について正しいものには○、誤っているものには×を記載しなさい。

- (1) 痙性歩行障害など日常生活に支障を生じた場合は手術治療となる。
- (2) 消炎鎮痛剤や筋弛緩剤などの薬物療法。
- (3) カラー装着による安静。
- (4) 牽引療法は禁忌である。
- (5) 手術としては椎弓形成術が一般的である。

11-64 腰椎椎間板ヘルニアの治療について正しいものには○、誤っているものには×を記載しなさい。

- (1) 少し運動・労働を行い、安静より適度の運動が重要である。
- (2) 急性期には、非ステロイド系抗炎症鎮痛薬や筋弛緩剤などの併用投与を行う。
- (3) 腰椎の牽引、局麻剤による硬膜外ブロック、軟性コルセットなどは有用である。
- (4) 保存治療を3ヶ月行なっても無効な場合、手術を考慮する。
- (5) 手術の相対的適応としては保存療法で軽快しないもの、再発をくりかえすもの、膀胱直腸障害などである。

11-72 デュピュイトラン拘縮について()内にあてはまる語句を記載しなさい。

デュピュイトラン拘縮とは(1)が肥厚収縮して指の(2)をきたす疾患で、主として(3)、小指に多い。初期には、手掌部に硬結を触れるのみであるが、徐々に(4)関節、(5)関節の(2)をきたす。指の(2)があまり強くなならないうちに(6)療法を行う。

11-73 癒着性肩関節包炎について正しいものには○、誤っているものには×を記載しなさい。

- (1) いわゆる五十肩と呼ばれるものである。
- (2) 寒冷時や夜間に痛みが強い。
- (3) 数ヶ月～1年半でほとんどの場合、自然治癒する。
- (4) 50～60歳代の女性に多い。
- (5) 肩関節周囲炎で上腕挙上制限のみである。

11-74 回旋膈板断裂について()内にあてはまる語句や数字を記載しなさい。

回旋腫板とは、不安定な構造の肩関節の上腕骨頭を前上、後方から補強支持している、(1)筋、(2)筋、(3)筋、(4)筋の四つの筋健群の総称である。回旋膈板は肩関節のほとんどの運動に際して圧迫、(5)、(6)により損傷を受けやすい。激しい運動による断裂は(7)歳代に多く、(8)膈板に対する軽微な外力による断裂は(9)歳代以上に多い。

11-79 骨粗霧症について()内にあてはまる語句を記載しなさい。

骨粗霧症とは(1)が骨形成を上回る病態が持続することにより(2)が減少し、骨の(3)が劣化して、(4)が低下し(5)しやすくなる全身性の骨の疾患である。男女比は(6)に圧倒的に多く、(7)に伴い著明に増加し、骨量が減っても(8)をおこさなければ、症状はでることはないが、急激におこるだけでなく、徐々にもおこり、年とともに(9)の変形が進行し、(10)痛や(11)減少をきたす、管状骨では(12)骨折を生じやすい。閉経後の治療薬としては(13)が有効である。

11-81 骨軟化症、くる病について正しいものには○、誤っているものには×を記載しなさい。

- (1) 成人期におこる場合をくる病、小児期におこる場合を骨軟化症という。どちらも同じ病変である。
- (2) ビタミンD欠乏、作用障害、低リン血症が原因となる。
- (3) アルカリフォスファターゼは低下する。
- (4) X線写真で骨軟化症では、多発性病的骨折である骨改構層が骨盤や大腿骨頸部などにみられる。
- (5) くる病の症状として、くる病念珠がみられる。

11-83 骨髄炎について正しいものには○、誤っているものには×を記載しなさい。

- (1) 起因菌は黄色ブドウ球菌が多い。
- (2) 20～30歳の男子に好発する。
- (3) 長管骨の骨幹に初発することが多い。
- (4) 発熱とともに急激に発症し、病巣部の強い自発痛、圧痛、熱感がある。
- (5) 骨膜下に膿瘍が形成されると、発赤や波動を伴った腫脹がみられる。

11-90 急性痛風性関節炎について、正しいものには○、誤っているものには×を記載しなさい。

- (1) 痛みは、足の親指の付け根である母趾末節骨関節に多い。
- (2) 発作は夜間就寝中に多い。
- (3) アルコール、栄養価の高い食事、薬剤などが誘因である。
- (4) 安静時でも激しい関節痛がある。
- (5) 青年期以前男性・更年期以前女性に多い。

11-96 川崎病について正しいものには○、誤っているものには×を記載しなさい。

- (1) 1歳児が最も多く、80%が4歳以下である。
- (2) 四肢の血管にも動脈瘤として発生すること多い。
- (3) 5日間以上発熱が続くことはない。
- (4) 赤沈値の亢進がみられる。
- (5) 非化膿性頸部リンパ節腫脹(慢性期)

11-97 多発性筋炎・皮肩筋炎について正しいものには○、誤っているものには×を記載しなさい。

- (1) 40～60歳女性に多い。
- (2) 皮膚症状では、ヘリオトロープ疹やゴットロン徴候がみられる。
- (3) 血中の筋原性酵素、特にクレアチンキナーゼが上昇する。
- (4) 筋電図では筋原性変化が陽性である。
- (5) 薬物療法ではステロイド薬の投与やステロイドのパルス療法を用いる。

11-101 皮膚は組織学的には上皮組織に属し、上皮組織は 1、扁平上皮、2、円柱上皮、3、移行上皮に分類されている。臓器の表面を被う上皮を 3 つの分類に分けて語群より選び、記号で答えなさい。

1. 扁平上皮
2. 円柱上皮
3. 移行上皮

語群

- a. 食道 b. 大腸 c. 膀胱 d. 顔面 e. 胃 f. 気管支 g. 尿管

11-104 アトピー性皮膚炎について正しいものには○、誤っているものには×を記載しなさい。

- (1) 顔面、頭部に限局して見られる。
- (2) 乳児より成人までの各年齢層に発症する。
- (3) 皮膚描記法により紅色皮膚描記症を来たす。
- (4) 末梢血にて好酸球増多を認める。
- (5) 血清 IgE 高値を示す。

11-106 次の皮膚疾患のうち、関節症状を来たすものには○、そうでないものには×を記載しなさい。

- (1) 乾癬
- (2) エリテマトーデス(紅斑性狼瘡)
- (3) 多形紅斑
- (4) ヘノッホ・シェーンライン症候群(アナフィラクトイド紫斑)
- (5) スティーブンジョンソン症候群(粘膜皮膚症候群)

11-107 次の疾患のうち、ウイルス感染が原因であるものには○、そうでないものには×を記載しなさい。

- (1) 疣贅
- (2) 蜂窩織炎
- (3) 水疱性類天疱瘡
- (4) 単純性疱疹
- (5) 帯状疱疹